



公益財団法人 日本体育協会公認  
茨城県スポーツ指導者協議会

# 会報

## 第 74 号

平成29年3月15日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会  
会 長 照 沼 一 美

事務局 〒306-0204

古河市下大野1463-4  
事務局長 鈴 木 義 夫

TEL・FAX 0280-92-4555

会員数 1,390 名 (H29.3.1 現在)



全県研修会（平成28年8月7日(日) 水戸市・茨城県農村研修館）

公益財団法人 日本体育協会公認  
スポーツ指導者のために

資質向上と  
活動の推進を

連帯感を深め  
組織的活動を

## 目 次

会長あいさつ.....	2
事務局長の活動報告.....	3
平成28年度全国公認スポーツ指導者研修会報告	
受賞者あいさつ.....	4～5
支部だより.....	6～8
みんなの広場.....	8～10

## ごあいさつ



照沼 一美

茨城県スポーツ  
指導者協議会会長

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、ご機嫌如何お過ごしでしょうか。平成二十九年を迎えるにあたり、新しい年度が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込め茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

平成二十八年度事業も予定通り滞りなく、すべての事業が終了いたしました。これ等ひとえに役員の皆様の献身的なご努力と、会員の皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

本協議会の主事業である登録更新時の必須義務研修である全県研修会においては、水戸支部主管として盛大に実施いたしました。更に支部単位の更新時義務研修会は県南支部、県北支部、が其々に実施いたしました。其々に支部の特徴を演出し、役員の皆様のお力が前面に出されて、参加者のニーズに応えることが出来たと確信いたしました。平成二十八年度の養成講習会は

各競技団体が行う独自事業として山岳（スポーツクライミング）十七名、弓道三十三名等が実施されました。新しい仲間の方々が受講され指導者として誕生いたしました。新公認資格者として指導力を有意義に成長させてほしいものです。新公認資格者の皆さんの一人でも多くの方が本協議会へ御入会されるよう望まれます。どうぞ、積極的な御入会をお待ちしております。

毎年の恒例行事になりました、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者の表彰式典が、去る平成二十八年十二月十日 東京都港区高輪のTKPガーデンシティ品川ホールにおいて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は以下の通りです。

▽県スポーツ指導者協議会推薦者

高村卓雄様・空手道

木村邦子様・テニス

平松光子様・バドミントン

▽各種競技団体推薦者

橋本和雄様・水泳

横島達雄様・スキー

ソフトテニス

計五名の皆様が受賞されました。誠に改めてとうございます。

今後更なるご健勝のうえご活躍をされますようご期待申し上げます。

式典後の公認スポーツ指導者全国研修会は、特別講演として、世界選手権メダリスト為末 大様の「セルフコーチング！自分の育て方」、講演として警視庁管理官兼組織犯罪対策第三課調査担当 南崎 聰様による「反社会的勢力との決別！スポーツ界の高潔性を守り高める」、そしてJOC国際人養成アカデミーアシスタントディレクター 相馬 浩隆様による「プレーヤーを育むコーチングスタイル」等の講演をいただきました。

表彰式典の前日、十二月九日 渋谷フォーラムエイトのオリオンホールを会場に平成二十八年度全国スポーツ指導者連絡会議が都道府県代表者・中央競技団体及び協力団体選出代表委員により連絡会議が開催されました。

主な内容は  
\*日本体育協会指導者育成の現状について  
\*日本体育協会公認スポーツ指導者制度の改正について

◎スポーツ庁由良秀雄参事官による第2期スポーツ基本計画策定について等の伝達がありました。

その後、山梨県を含む関東一都七県による関東各都県代表者会議を開催し、\*「公認スポーツ指導者制度の見直しについて」等々、各都県の現状のヒアリングを行い、この結果を日本体育協会へ報

告し、関東一都七県による今後の情報の共有化を約束しました。特に関東一都七県は全国に先駆けてブロック会議等の結末、年度事業として其々の各都県からの情報発信を促進し情報の共有化を約束しました。

茨城県スポーツ指導者協議会といたしましては県体育協会の指導の下、義務研修会を中心に、機会のある毎に「スポーツ界における暴力根絶」を訴えてまいります。

新たな年、平成二十九年が有資格者それぞれの皆様にとつて、益々ご活躍されますよう、ご祈念申し上げます。終わりにご愛読いただいております、茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。



全県研修会 手話ボランティア



# 平成二十八年度 本協議会活動報告



茨城県スポーツ  
指導者協議会事務局長  
鈴木 義夫

平成二十八年度本協議会の事業活動を、ご報告申し上げます。

今年度の本協議会総会は、平成二十八年四月二十四日(日)に水戸市内原中央公民館で開催をして、茨城県スポーツ指導者協議会会長より総会席上に於いて、功労賞に中央支部高村卓雄様・木村邦子様、感謝状に水戸支部笹本弘様・県西支部角谷俊二様・石塚君子様が受賞しました。

平成二十七年事業報告及び収支決算報告並びに平成二十八年度事業計画案及び収支予算案が全会一致でご承認が得られました。

本協議会の主なる事業は、研修会「全国研修会・地区研修会」を三回開催して、今年度の全県研修会を水戸支部及び研修委員会共同で主管して、平成二十八年八月七日(日)に水戸市茨城県農村研修館で開催に参加申込者は百七十八名に受講者は百六十七名「会員百二十九名・未会員二十八名」で、県南地区研修会は県南支部主管で

平成二十八年十一月十三日(日)に阿見町本郷ふれあいセンターで開催に参加申込者は百六十四名に受講者は百四十三名「会員百五名・未会員三十八名」・当日欠席者は三十名おりました。県北地区研修会は県北支部主管で、平成二十九年二月五日(日)日立市女性センターで開催に参加申込者は百二十一名に受講者は百八名「会員八十一名・未会員二十七名」・当日欠席者は十九名おりました。

本協議会は会報を毎年二回「三月末・七月末」広報委員会が主管で、原稿依頼、研修会取材、編集校正後に印刷製本が完成したら、本協議会事務局から各支部を通じて、会員皆様へ会報配布し、また各支部の独自の活動として、講習会及び研修会等を開催して、さらに支部便りを発行しています。

茨城県に所属する(公財)日本体育協会公認スポーツ指導者は、平成二十八年十月一日現在に登録人数は三千七百八名で、本協議会の有資格者は二千九百八十一名、会員数は千三百五十四名で、会員比率四十五・四二%であります。本協議会は、毎年四月及び十月に(公財)日本体育協会に資格取得した公認スポーツ指導者に会員入会のご案内文書が届いたら、本協議会へ会員更新を積極的にご入会をお願い申し上げます。

なお今年度四月から会員入会した方々へ会員特典に研修会受講記録カードを無料で送付しています。今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の発展寄与に事業運営等を、会員皆様のご理解とご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。



県南地区研修会 (H28.11.13(日) 阿見町)



県北地区研修会 (H29.2.5(日) 日立市)

## お知らせ

住所変更及び改姓した場合必ず変更届を連絡して下さい。

【連絡先】 〒306-0204

茨城県スポーツ指導者協議会事務局 古河市下大野1463-4

鈴木 義夫

TEL 0280-92-4555

FAX 0280-92-4555

## ホームページ開設



[www.ibaraki-sports.or.jp/](http://www.ibaraki-sports.or.jp/)

平成  
28年度

# 全国公認スポーツ 指導者研修会報告



## 受賞者あいさつ



常陸大宮市  
高村 卓雄

この度平成二十八年度日本体育協会より公認スポーツ指導者表彰受賞致しましたが、これも偏に県スポーツ指導者協議会照沼会長を



那珂市  
木村 邦子

この度、平成二十八年度公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者表彰式が、平成二十八年十二月十日TKPガーデンシティ品川に於いて、全国二〇三名の中

始め、鈴木事務局長、そして県体育協会よりご推薦計らいの御陰でございます。大変恐縮いたしております。又常日頃は県の指導者の方々は勿論の事、ファミリー的に活動している中央支部の役員の皆様には大変お世話になっております。これを契機に気概をもつて子供達と空手道を通して、礼儀正しい心身の鍛練に励んで行きたいと思えます。関係者に御礼を申し上げます、今後共宜しくご指導の程お願いします。一筋の道はけわしもゆきゆけどはてなきものを今日もまたゆく霞

の一人として、日本体育協会副会長長監物永三様より表彰盾を頂きました。推薦を賜った茨城県体育協会、茨城県スポーツ指導者協議会、茨城県スポーツ指導者中央支部の各関係者のご尽力に心より感謝申し上げます。

今回の全国研修会では「スポーツと人間がテーマ」です。特別講演では一、為末大氏は「セルフコーチ自分の育て方」二、南崎聰氏は「反社会勢力との決別」三、相馬浩隆氏は「プレーヤーを育むコーチングスタイル」です。為末氏の講演が興味がありました。先ずは①集団と個人では(比較社会、応援)②積み重ねと変化(年齢によつて変える)③型と意味(どうして練習をしなければいけないか?)④目標と楽しみ(目標だけで走ると燃え尽きる)⑤夢中と客観視(努力は夢中に勝てない)また、精神力、性格を知った上での指導は、指導者本人が失敗の経験によつて適切なアドバイスが出来る。コミュニケーションが悪いことは指導者が遠慮、自信のないこと。どうすれば自ら学び成長し続けられるか、わかりやすく話された。自分も選手に比較しないで自分の中でちょっとだけ努力することにより、思っても見ない自分に出会えると言うこと、伸びしろを残してあげてスポーツの楽しさを

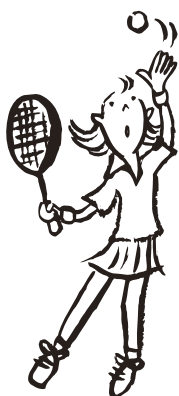
を伝えて行けたらと思っております。

私も県代表選手を育てたいと夢はありましたが残念ながら、私のクラブではレベルアップした段階で上級者クラスに上がります。

茨城県テニス協会では普及指導委員会に所属して、テニス人口の裾野拡大を目指しています。活動では国際テニス連盟(ITF)が推奨するPLAY&STAYを県内各地域を回って「将来の錦織を夢見て楽しい、そして奥深いテニスをお子様と一緒に始めませんか」のアカデミー事業として活動をしています。那珂市でも地域スポーツひまわりクラブで前期、後期と年二回小学三年生までのジュニアを募集して普及に力を入れております。

全国研修会に参加して、少しでも技術向上につながるコーチになる様に関わって行きたいと思えます。

どうぞこれからも皆様のご指導宜しくお願い申し上げます。







日立市

平松光子

この度、平成二十八年年度公認スポーツ指導者全国研修会に於いて、公益財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者表彰式が行われ、全国二〇三名の一人として表彰盾を賜りました。ご推薦を頂きました茨城県体育協会・茨城県スポーツ指導者協議会・県北支部の皆様方のご尽力により受賞に至ったものと心より感謝申し上げます。

バドミントンを楽しむ事を目的として始め、その後、指導者としての活動に入っていく、無知の処から始まりました。

ある方からのメッセージで「のばそう、精神の背丈を」身長は有限であるが、精神の背丈は無制限である。指導者として、失敗を繰り返し、落ち込んで、踏ん張って、支えられて、沢山学ぶ事ができました。永い年月で精神の成長を積み重ね、今この言葉の意味を理解でき、今日まで続けられたと思います。そのお陰で今まで多くの方々と出会い、交流を深める事ができ、表彰の基準に育て押し上げて頂き名誉な事と、感動と幸福感を得る事ができました。

当日はTKPガーデンシティ品川ボールルーム広間にて全国研修会が実施されました。

最初に特別講演で、元陸上競技選手為末大氏 セルフコーチング自分の育て方、陸上スプリント種目の初メダル獲得者として自分の経験を元に、育てていく為のコーチングで、実際の練習の例でわかりやすい講話でした。

又、現在はスポーツと社会、スポーツと教育と幅広い研究にかかわる活動をしているとの事でした。

次に、反社会勢力との決別 スポーツ界の高潔性を守り高めると題して 警視庁・南崎聰氏による講演

暴力団勢力は各種事業への参入を企てて資金獲得活動がスポーツ界にも及んでいます。違法賭博・違法薬物・八百長問題等、選手個人や指導者や各協会等の関係者、スポーツ関連事業等、資金獲得の格好の標的となっている。スポーツ指導者はこの講演を通じて暴力団の実態を認識し、スポーツ基本等に定める基本理念を実現する。実例を交えての話に関心深く聞くことができました。

第三として、プレーヤーを育てる育成アカデミーアシスタントディレクター 相馬弘隆氏の講演

プレーヤーを育てるためには指導者の軸を知る。スポーツを指導する目的として、a勝てるチームを作る b若者にスポーツの楽しさを伝える c若者の成長を助ける事 指導者は意志決定を選手と話しあう

初心者・初級者といったスポーツのエントリー層に対し、いかに導いていくかと言った疑問や不安が付きまといまいます。指導者として自分の軸を立て、信頼関係・コミュニケーションスキルをいかに築けるか大切かと思いました。

今後は三人の講演で拝聴した内容を考慮しこれからの指導法に役立てて行きたいと思えます。

又、最近それぞれ体のライフスタイルに合わせた体づくりの企画にも参入させていただき、バドミントンを通して潤滑油として地域を盛り上げ活性化できたらと思います。

今後とも、皆様方のご指導・ご支援宜しくお願いたします。



県北地区研修会ディスカッション



県南地区研修会受講風景

# 支部だより

鹿行支部  
支部長  
島田昌和

平成二十九年一月二十九日 神栖中央公民館にて、支部の研修会を実施しました。講師に銚田病院リハビリテーション科、理学療法士鶴田尚也氏による「中高年者のケガの予防」ーリハビリの視点からーのテーマの下、二時間に至る講演をしていただいた。

研修内容を紹介します。  
変形性膝関節症の正常な状態、初期症状、末期状態・腰部脊柱管狭窄症・肩関節周囲炎の正常、異常などの画像による説明の後、どうしたら予防できるかの話しがあった。

体幹筋を強化する、横隔膜、腹横筋、骨盤底筋群、多裂筋、大腰筋の役割とその強化法などの解説していただいた。そして体幹と障害の予防の関係は体幹は土台、手足が家で家がしっかりしていても土台がグラグラだと意味がない。グラグラな土台だと枝が頑張ろうと無理をする。手足に余計な力が入ってしまうし、非効率な動き(筋活動)となってしまうということだった。  
サッカーのロナウドと本田選手

の同一の動きと比較して解説してくれた。(同一の動きといっても写真の比較なので必ずしも正確ではないが)体幹を鍛えるのには歩行も大変良いということだった。日本人の成人男子の一日の平均歩数は七千二百歩、女子は六千二百歩との事。

歩数と距離の目安の関係、五千歩歩くと身長百五十センチの人は二・五キロ、百六十センチの人は三キロ、百七十センチの人は三・五キロ、百八十センチの人は四キロ歩くという。自分で目標をつくり無理なくやるのが大事との事。

また、大腰筋を鍛えるため踵を地面に接したまま歩くなども良いとのこと。腹横筋、骨盤底筋群を鍛える腹式呼吸、腹横筋、多裂筋を鍛える四つ這い運動など体験して研修会は終了した。中高年に限らずスポーツ選手にもいいのではないかと思つた。資料も残りありませんかと二部持ち帰る人もあり有意義な研修ができました。支部でも指導者の皆様に少しでも役立つ研修会等有意義な活動をしていきたいと思ひます。

来年一月末には日体協公認スポーツ指導者の有意義研修を神栖で開催する予定です。

茨城国体も間近です。県民総参加で大いに盛り上げていきたいものです。

県南支部  
支部長  
櫻井孝之

県南地区研修会も、会員の皆様のご支援により、約一四三名の参加を戴き無事終了できました。感謝申し上げます。大塚製菓の情報提供に続き講演1スポーツの指導における暴力根絶のために弁護士大橋卓先生の講演がありました。アンケートの感想は、体罰や暴言などは絶対あつてはいけないと理解して指導しているが多数でした。指導者は勝つことが目的で選手を育成しているが、結果がでないと色々ストレスも溜まる。又、体罰は必要で、体罰後のフォローが重要との感想もありました。

\*指導者のやり方が行き過ぎと感ぜられ、それが暴力と誤解される  
\*勝利至上主義を止め、スポーツの楽しさを伝える努力を  
\*多様な価値観を有した指導者で構成し、相互チェック出来る体制で、個性を生かす指導を

\*指導者は基本的に選手の為にあり指導者の自己満足ではいけない。選手を尊重し、寄り添い相互の理解を深め、選手の目標を達成する為にサポートする。  
\*暴力・暴言をしないよう常に意識し、他の指導者にも同様に声掛をしています。

その他多数の意見がありました。

コーチング法に基づいた指導が今後主流となると思う。講演IIアスリート・センタード・コーチングと題し伊藤雅充先生のアクティビティーコミュニケーションが好評でした。クローズドクエスチョン(イエスノーで答えられる)とオープンクエスチョン(どう思うか?)ワークシヨップ形式で大変良かったとの感想が多かった。グッドコーチに求められる「資質能力」の向上にNHKで放送されている「奇跡のレッスン」を教材として利用してみるのも一方法です。特に若手の指導者や父母の方に一度見せてオープンに話すのも...

県西支部  
事務局長  
近藤康雄

平成二十八年度の茨スポ指導協、県西支部活動もまもなく終わりに来ております。昨年八月七日(日)、平成二十八年度全国研修会を水戸市茨城県農村研修館で開催し、県西支部からは十七名の方が参加して頂き遠路ありがとうございました。県西支部会員も年々少いままです。県西支部会員も年々少いままです。増加傾向にあり、十一月現在、一七二名となっております。

二十八年度、県西支部独自の活動として、昨年八月二十八日(日)古河市中央運動公園はなもも体育



館で「ストレッチ体操」の研修会を企画、会員の方にお知らせしましたが一昨年（インディアカ）と同様、参加者（六名）が少なく非常に残念でした。今後の県西支部をどの様に運営して行くか考えさせられます。会員の方々は各地域でいろいろな競技種目で活躍されていると思いますが茨スポ指導協県西支部として多くの方々が参加して頂ける企画を考えて行きたいと思えます。平成二十九年度は県西支部役員の更新時期（二期二年）になります。一月末に役員会（支部役員改選、決算、予算、活動）を開催し平成二十九年三十年度の役員を選考したいと考えております。候補に挙げられた会員の方々は連絡を差し上げますので御協力のほど宜しくお願い致します。平成二十九年地区研修会の開催が県西地区で計画しており、開催場所は下妻地区を予定しています。（平成二十九年十一月十二日（日））下妻地区の会員の方々は御協力をお願い致します。

この会報をご覧になり、ご意見、ご要望がありましたら

〒306-0052

古河市大山1543-13

県西支部事務局 近藤康雄

◆TEL・FAX

0280-48-1911

まで連絡をお願い致します。

### 水戸支部

支部長

吉田 広光

平成二十八年度の活動と終わりを告げ様としております。新しい年度茨城県スポーツ指導者研修会の開催するにあたり一年置きに水戸支部が研修役を担当しており今年で四年目を向かえる事と思われま。前回の茨城県農村研修館に於いてこの企画及び計画の運営に当たり指導者の皆様よりアンケートを頂きその結果①現状で良い②前の会場が良い③又は新しい会場にする④が一五二名②一四名③一二名又開催は八月一週目の日曜が時間については朝七時三十分～十二時終了と受講人数としては一六〇名程度が望ましいこの様なアンケート結果でした。水戸支部は現在有資格者数三九〇名会員人数一四九名であります。是非水戸支部が主管として担当役時にはこの研修会には積極的に毎回参加して頂いて自分自身のためにも貢献される事と思われま。一層の活躍を期待しております。

平成二十九年日本体育協会茨城県スポーツ指導者協議会において本年度水戸支部より残念ではあります表彰者がありません。次年度に期待しております。

第一回水戸黄門漫遊マラソン大会が平成二十八年十月三十日

同実行委員会初め茨城新聞社特別協力として開催され全国から一三四〇九名の出場者があり、元マラソンランナーの谷口浩美又増田明美などゲストとして大会に出場し水戸市が初めて行う水戸黄門マラソン大会を盛り上げてくれました。もちろんでありますがこの大会に水戸市のスポーツの仲間それぞれの競技団体からボランティアとして三〇〇〇名の指導者が参加されスポーツの重要な役割を果たされた事と思われま。選手の皆様からの一声水戸市内五〇号をスタートし県の三の丸庁舎をゴールとする男子総合では井上直紀（東京都）二時間二十四分三十八秒で圧勝され絶好のマラソン日和という肌寒さと曇り空の下、途中コスモス畑や千波湖など景観を楽しみ途切れることのない応援に励まされ非常に良かったと感謝の一言でした。平成二十九年は第二回大会は十月二十九日と決定してま。水戸市のスポーツ界にも一つ楽しみが役割と今後の活躍に期待しております。自信のある方は身体を鍛え是非参加されては如何でしょうか。本年は経済界スポーツ界地域社会に於いて挑戦の字が目によく入ります。県スポーツ指導者の皆様と共に水戸支部の活躍の出来る仕事を共に提供し合い前に進めたいと思っております。

### 中央支部

事務局

野々村 律子

中央支部といたしましては、平成二十八年四月の支部総会。六月四日（土）ひたちなか市西消防署に於いて救命講習会。九月三日（日）笠松運動公園多目的室で、藤枝昇代のトレーニングの科学、飯島寿一氏の障がい者のスポーツ活動について、と中央支部研修会を開催して、六十七名の日本体育公認指導員の更新をする事が出来き、平成二十八年度事業を終了する事と成ります。

平成二十九年四月の支部総会を経て、六月上旬に予定している、救命講習会を、ひたちなか市西消防署で思っております。その通知の折り、ご家族、ご近所さん、活動仲間にも、有事の際の心得え、勇気を明確にするべく、共に学ぶ呼びかけをしたいと思えます。

今年度は全県研修会が中央支部となっておりま。会員さんに八月六日（日）水戸市農業研修センターでの、日本体育協会公認スポーツ資格更新事業参加により、資格喪失する事の無い様に、してほしいと思えます。

国体、オリンピック・パラリンピック開催に向けて、今、自分の役割を見直して、意識をより一層高揚させて、又何か回りを見渡し

て、何か出来る事がないか、今一度廻りを注意し観る時が今だと思えます。自分の種目のお手伝いが出来ないなら、地元開催の種目、及び大会全体のボランティアでも良いではないですか。来県して下さる、選手、応援者の皆様に、気持ちよく笑顔でお帰りいただけようように出来る事を捜しましょう。今からなら、きつと何か有る筈です。

二月四日(土)ひたちなか市体育協会特別講演会で、元オリンピック、東京オリンピック・パラリンピック開催組織委員会スポーツディレクターの室伏広治さんのお話を伺う事が出来ました。日本体育協会情報誌特別号を読んだ後でしたので、私事ですが、室伏さんと同じ様に、思ってもいなかった二〇〇一年大阪開催の世界卓球選手権大会の審判を、手続きをし続け、欠員の一人に加えて貰った事があります。講演内の事項で、「父をこえられるか」答えは、「ノー」でした。「記録は父より十メートル、上まわったが、自分は自分を越える選手をまだ育てて、いない。」心に残る言葉でした。自分のこれからの活動の大きな目標になる言葉です。よい指導者になるべき活動を、飛躍させたい物と思えます。

県北支部

支部長

梅村恒雄

前回、今年度の総会までご報告しましたので、その後の事業実績についてご報告します。

・平成二十八年事業実績

四月 四日 定例会

県常任理事会報告・女性センター報告・支部総会対策・日立さくらロード対策

五月 九日 定例会

日立さくらロード報告・県理事會報告・支部総会対策・支部会報発送

六月 六日 定例会

支部総会報告・県研修委員会報告・友の会報告・周年事業対策

七月 四日 定例会

鈴木顧問報告・周年事業対策・支部会報審議

八月 一日 定例会

地区研修会講演内容報告・周年事業対策

九月 五日 定例会

全県研修会報告・女性センター報告・周年事業対策

十月 三日 定例会

女性センター祭対策・周年事業対策

十一月七日 定例会

十二月五日 定例会

県常任理事会報告・女性センター祭報告・周年事業対策

一月十六日 定例会

全国研修会報告・女性センター報告・地区研修会対策・周年事業対策

以上が現在までに実施した事業です。今後の事業は、

二月 五日 県北地区研修会

講演I ACP・講演II スポーツ界の暴力追放

五・六日 定例会兼祝賀会

次年度事業計画確認

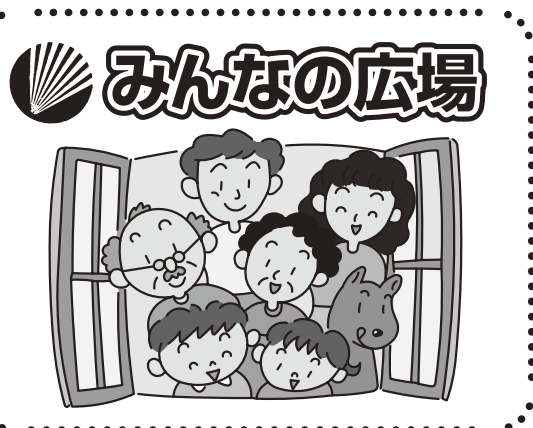
三月 六日 定例会

周年事業対策・支部総会対策

地区研修会は、「アクティブチャイルドプログラムII ACP」と題して講演を計画しました。

ACPとは、子どもたちが楽しみながら積極的に体を動かせるため、子どもたちが発達段階に合った身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして開発されたものです。

指導者の皆さん、ぜひ一度は受講し、体験してみたいかがですか。



スポーツ指導は

喜びと楽しみ



石岡市 渡辺 吉光

今私は、茨城県指導者協議会県南支部におきまして研修委員としてお手伝いをさせていただいています。

私が指導者の資格を取得したのは、平成四年に以前勤めていた会社のソフトボールチームの立ち上げがきっかけでした。

ソフトボールは野球と同じかと思っていたのですが、ルール等に



多々異なっており、チームの誰も周知しておらず困惑してしましました。そんな時、茨城県ソフトボールチームの審判部長様に出会い、「ルールを知るためには公認審判員の資格を取得する」といとの助言をいただき、公認審判員の資格を取得しました。

さて、ソフトボールのルールはある程度分かっていたのですが、ここでまた難題が持ち上がります。新規チーム全員がソフトボールには素人だった為、ちつとも上達しないのです。練習試合や市の大会でも負けてばかりでした。どうしたら上手くなれるのか、どうすれば勝てるチームになれるのか、バツティング、守備、コンピネーション、課題は盛り沢山です。

外部コーチを招いてノウハウを教授して貰うのもいいが、チーム力を上げるにはチームの中からコーチニング、指導できる人を育成しようということになり、公認指導者の資格を取得しました。

現在、コーチニングとして、非公式ではあります。が中学校女子ソフトボール部、選手兼コーチでハイシニアチーム、また、立ち上げたばかりの一般男子チームの手伝いをしていきます。

専門部門ソフトボールの指導者として歩んできたのですが、そうではなく、一つの専門分野にと

どまらず、広く応用できるような共通的な知識を身に付けて、ソフトボール以外の他のスポーツにも多少なりとも役立てることはないか。と思うようになり、平成二十四年にコーチの資格を取得しました。コーチの資格取得講習に於いては、どんなスポーツにも適用、応用できる共通項目を教授いただきました。

最近、生涯スポーツ地域総合型施設がピクアップされてきています。茨城県内でも一部市町村にて実施されている所もあります。が、まだまだ浸透するに至っておりません。指導者不足がネックになつているとの声も聞かれます。色々課題はあると思いますが、総合型スポーツ施設の普及に貢献できればいいと思つていきます。

少子高齢化が深刻化している。今ではありますが、だからこそ、小さな子供からハイシニアまで、安全安心して楽しめる種々様々なスポーツが普及し、そしてコーチニングできればいいなあと、夢を広げている私です。

今まで一緒に歩んできた仲間と出会う度に懐かしく、嬉しく感じます。これからも技術力向上も然ることながら、スポーツを楽しむ心の糧として、心身共に大きく成長できますよう、共に歩んで行きたいと思つていきます。そうなるこ

とが私の喜びでもあり、楽しみでもあります。

## 神栖市カヌー競技紹介

神栖市文化スポーツ課

松田 周平

二〇一九年のいきいき茨城ゆめ国体において神栖市は、テニス競技、カヌー、スプリント競技、グラウンドゴルフ競技の会場地になつています。その中で今回はカヌー、スプリント競技についてご紹介いたします。

国体のカヌー競技には、当市で開催されるカヌー、スプリント競技と大子町で開催されるカヌー、スラローム競技・カヌーワールドウオーター競技があります。

カヌー、スプリント競技には、立て膝の姿勢で水かきの片端にブレードが付いたパドルを使い、艇の片方だけを漕ぎ進むカナディアン部門と両膝をそろえて足を前に出して座り、両端にブレードが付いたパドルを使い交互に漕ぎ進むカヤック部門があり、それぞれ二〇mと五〇〇mの距離で着順を競います。

当市におけるカヌーの普及といたしましては、かみすスポーツクラブでの活動が平成二十五年から、県立波崎柳川高等学校カヌー部が平成二十二年頃から活動して

おり、毎年四月から十月末にかけて、国体会場地となる神之池での練習や水上での活動を楽しんでいます。今年は県立波崎柳川高校カヌー部の一年生一名がカヤック部門で関東大会に出場しており今後の活躍が期待されています。

また、かみすスポーツクラブと県カヌー協会の主催で、茨城国体で活躍する選手を発掘・育成することを目的に、市内中学生を対象としたカヌー教室を平成二十八年七月に実施しました。初日はあいにくの雨となりましたが、教室に参加した十七名の生徒の皆さんは熱心に取り組んでいました。

さらに、十月に開催した神栖市スポーツレクリエーション祭二〇二六のプログラムの一つとして、カヌー体験教室を行い三九名の参加がありました。ほとんどの方は初めてカヌーに乗ったにもかかわらず、始まってから数時間後には水上で楽しむ姿が見られました。

今後は国体開催に向けた、県民総体予選や国体リハール大会等の大会開催が増えることで、カヌー、スプリント競技を目にする機会が多くなり、市民をはじめ多くの県民の皆様がカヌー、スプリント競技をPRできることと思います。

最後になりましたが、カヌーの魅力といたしまして水上競技として行うカヌーとは別に、カヌーに

乗って水上から見る様々な景色があります。カヌーに乗ることで見慣れた風景も違った視点、角度で観ることができ、新たな景色として目の前に広がります。

カヌースプリント競技は二〇二〇年東京オリンピックの競技種目の一つでもあり注目を集めている競技です。加えて茨城国体は東京オリンピックの前年となっており、今後ますます注目を集めると思われます。

二〇一九年茨城国体で行われるカヌースプリント競技と水上からの景色を見に、神栖市に是非いらっしやってください。

## 茨城国体に向けて



古河市  
近藤 康雄

二〇一九年（平成三十一年）四十五年ぶりに茨城県でスローガン「翔べ羽ばたけそして未来へ」「いきいき茨城ゆめ国体」（茨城国体・第七十四回国民体育大会）が平成三十一年九月二十八日より十月八日にかけて開催されます。

地元、古河市では公開競技である「綱引」の会場が選定されたことを受け、古河市スポーツ推進委

員である私も現在微力ながら協力しております。綱引競技が古河市で開催される事を知り、一昨年、審判資格A（シングルA）を取得（古河スポーツ推進委員二十四名中十一名が取得）毎年開催されている全国大会・関東大会・フェスティバル等に審判、役員として参加し、審判技能の研鑽を重ねています。茨城県には綱引連盟はありません。昨年九月に古河市で事務局（国体推進室）と協力し、古河市綱引連盟を発足、設立しました。一般的にはマイナー競技である綱引ですが、以前はオリンピックの正式競技として扱われていたとの事です。簡単にルールを説明しますと、一チーム十二名（選手八人・交替要員二人・監督・トレーナー）で選手八名の体重が六百キログラム以内で、一本の綱を自陣に四メートルひっぱったチームが勝ちとなります。時間は無制限です。審判の合図①ピックアップザロープで選手は綱を持ち②テイクザストレインで綱引の体勢に入り③ステディ④プルで試合が始まります。全国大会での試合などでは、プルの合図があつてから綱が張られ微動だにしない時があります。動かない理由は相手の力量を確認する為です。三十秒ほどすると監督の指示で引き始めます。反則（コーション）もあり、肘を体に

つけて綱の動き等を止める（ロッキング）競技用マットに尻をつける（シッティング）等、他にもありますが反則を三回通告された時点で反則負けとなる試合が多々見受けられます。体重が決まっている為必ずしも自陣に四メートル引込む試合は少ないです。

古河市では昨年古河市スポーツ少年団（約二十チーム）の綱引大会、古河市内の事系所対抗（約十二チーム）の綱引大会を二度ほど実施。今年の二月には、東京都綱引連盟、関東綱引連盟の方々の協力を頂き、第一回古河市綱引フェスティバルを開催致しました。

まだまだ参加チームが少ないですが来年はプレ国体を開催する事になっており、綱引競技に興味のある方は、古河までお越し下さい。又、競技に参加希望の方がおりましたら県西支部事務局近藤までご連絡を！



### 会員入会協力へのおねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間に、会員入会をお勧めいただける様、ご協力をお願いいたします。

### 編集後記

第七十四号会報発行に当たり皆様に原稿を賜り心から感謝申し上げます。

ご愛読いただけるとの報告となるよう努力してまいりますので、皆様のお寄せ頂きたいと思っております。

次回の会報第七十五号発行は平成二十九年七月（予定）

### 広報委員会

広報委員長

岡野 秀一

広報副委員長

柏葉 光子（中央支部）

広報委員

佐藤 マツ（県北支部）

舛井 幸子（水戸支部）

君和田治也（鹿行支部）

櫻井 孝之（県南支部）

石塚 君子（県西支部）